

# タガ 日本の縮の緩みの考察

金沢工業大学客員教授  
(株)人間と科学の研究所 所長

飛 岡 健

## 日本文化の基底の形成について

—日本人は、もっと日本文化の拡がりと奥行きを本質的に学び、

日本に自信を持ち、世界と渡りあおう! —

### (3) 日本文化の深層の形成の研究の重要性

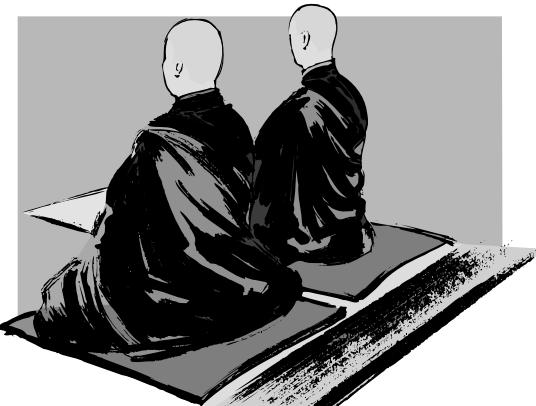
何故そうした個々の事象が生まれ育ったのかに関しての分析は弱いのではなかろうか。

■日本文化研究の概要と課題  
今日日本文化への様々な見直しが、人々の口に上り始めている。それは(1)と(2)で見てきた如く、多くの外国人が日本を“黒船来襲”的に日本人を刺激している事に大きな要因があるようだ。日本人自身が、内発的に関心を高めた訳では無いのは、いつもの事である。しかし何度目かの日本研究ブームの到来と称する事が出来るであろう。だが、そうした研究において、日本人あるいは日本社会に関しての基底の部分に関する日本人自身の行う研究は、少しその点に関して弱い部分があるのではなかろうか。

図3に、日本(人)研究の名著の一部をリストアップしたが、日本(人)に関する現象的に目に見える部分の分析は、各々が鋭く行っているが、

も、そうした基底や深層がどのように形成されたのかの分析が薄いところが気がかりであるし、今一つ日本人自身が日本や日本人について深い理解に至らない理由ではないだろうか。

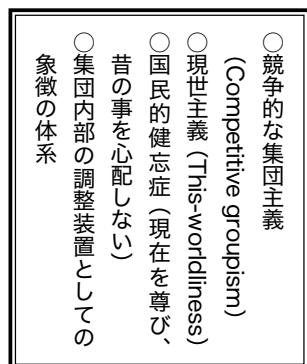
実は日本研究そのものは、江戸時代辺りから、実に多くなされているので、ひょっとする我々が知らないもので、大変な研究が埋もれているかも知れない。多くの人が過去の研究をレビューして、新たな論点を加えていく作業を繰り返していく中で、深味を増していく部分と、逆に



落とされていく部分が在るのも事実であり、そうした中に基底や深層についての卓越した研究があつたのかも知れない。それを理解した上で、ここでもう一度日本人が日本の歴史を通して日本の中に築いてきた文化の基底、深層の形成プロセスについて再度論じることをここでの課題としてみたい。

題名	1 『禅と日本文化』	2 『茶の本』	3 『「縮み」思考の日本人』
著書	鈴木 大地	岡倉 天心	李御寧
内容	日本の文化に低在する禅の教え	茶の本質的理解	入れ子型 扇子型 姉様人形型 折詰弁当型 能面型 紋章型
題名	4 『「甘え」の構造』	5 『日本の思考』	6 『菊と刀』
著書	土居 健郎	丸山 真男	ルース・ベネディクト
内容	受信的愛情希求	現代日本の思想が当面する問題への考察	日本占領の為の日本研究
題名	7 『大日本史』	8 『歌意考』『万葉考』『国意考』	9 『村農場の研究』
著書	徳川 光圀	加茂 真淵	樋口 貞三
内容	大日本史の編纂 (本紀73巻、列伝170巻、その他合せて398巻)	和歌における古風の尊重、 万葉主義を主張して和歌の革新	米倅体系の変容と稻作新構造
題名	10 『武士道』	11 『「いき」の構造』	12 『風土』
著書	新渡戸 稲造	丸鬼 周蔵	和辻 哲郎
内容	武士は何を学び、どう己を磨いたか 日本人の精神	日本独自の美意識を減少額的に把握	和を持って

図3 日本人の精神に関する研究の著者と著書



## ■ 日本文化の基底、深層に関する研究

『日本文化のかくれた形』において武田清子監修の下に、加藤周一、木下順三、丸山真男の三氏の日本文化の「アーキタイプス」に関しての見解が表明されている。加藤周一氏は次の四点をその中心となす論を展開している。そして、この四つの内的連関性を持つ日本人の特質が対外的にどう発露するのかを論じている。しかし、私が問題とするのは、何故それなったのかの歴史的形成過程である。それに関しては「日本人はどこから来たのか」(齊藤忠著)を始め、参考になる文献は多く、客観的記述は参考になるが、それらがどうして形成されたのかの視点は少し突込みが足りないようと思えるのである。それはどうしてなのだろうか。

■ 日本人の文明、文化の深層(基礎)の形成を考えるに当たって「静けさや岩にしみ入るセミの声」、「古池や蛙飛び込む水の音」といった、日本の誇る「五・七・五」の俳句の中にもうたわれている心をどのように捉えるのかの研究は多くあるが、そこにはうたわれている心が何故日本人の中に生まれ、身に付いたのかの研究に関しては十分に研究されていようにも思えるが、今一つもの足りなさを感じるのは私のみであろうか。

例えば、岩という無機静寂な存在に、永遠不動の姿を見て、その永遠不動の固い岩の中に、僅か1~2週間の一瞬の生命の輝きしか持たない蝉をその生命の輝きの象徴としての蝉の鳴き声を対比させ、しみ入るという表現により、一瞬の生命と永遠の関係を見ているが、それは日本の活花の技法へとも繋がっていく。そしてその更に奥にあるのは無常観であり、善の教えでもある(『禅と日本文化』)。何故そうした心理描写を「五・七・五」の形式の中でするようになったのであるか? 今日「五・七・五」の形式の中で表現されたもの

七・五の形式の中で表現されたもの

についての分析は多くなされ、立派な業績も多いが、なぜ日本文化として、こうしたものが育つたのかに関しての研究は、まだ十分とは言えないものである。

何よりも、どの民族の人々も、自らの与えられた生存環境に適応するべく自らの心身を変化せしめると共に、環境そのものを変化せしめて、その適応を図ってきた。まさに物理的空間と意識空間としての心をどう対応させ、より良い生存をデザインするかの歴史の中で、人間の認識は深まってきたのである。日本人の培ってきた認識空間は、まさに日本の物理的自然の深層を反映したものである。この点の理解が日本人の文化の深層（基底）を解明していく上でのベースなのである。

図4に、日本文明、文化の深層（基底）、あるいはプロトタイプをどう捉えるかを示した。

一番ベースには、人間の一般の認識のベースとなる「存在－関係－変化」の三位一体に対し、日本人が取り込んだ概念は、存在に対し「無有」と悉皆仏と不殺生」であり、次いで関係においては「一念三千、一即多、間」のべースとなる「存在－関係－変化」の中では、「念三千、一即多、間」が明確である。それらを紐解けば、それらに關しての説明が与えられるであろう。

私がここで問題にしたい事は、前回返すが、前述の『日本文化のかくられた形』の中で、日本の代表的な事、「間人」が明確である。それらを紐解けば、それらに關しての説明が与えられるであろう。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをどう捉えるかを示した。

一番ベースには、人間の一般の認識

のベースとなる「存在－関係－変化」の三位一体に対し、日本人が取

り込んだ概念は、存在に対し「無有」と悉皆仏と不殺生」であり、次いで

関係においては「一念三千、一即多、

何よりも、どの民族の人々も、自

らの与えられた生存環境に適応するべく自らの心身を変化せしめると共に、環境そのものを変化せしめて、その適応を図ってきた。まさに物理的空間と意識空間としての心をどう対応させ、より良い生存をデザインするかの歴史の中で、人間の認識は深まってきたのである。日本人の培ってきた認識空間は、まさに日本の物理的自然の深層を反映したものである。この点の理解が日本人の文化の深層（基底）を解明していく上でのベースなのである。

図4に、日本文明、文化の深層（基底）、あるいはプロトタイプをどう捉えるかを示した。

一番ベースには、人間の一般の認識

のベースとなる「存在－関係－変化」の中では、「念三千、一即多、間」が明確である。それらを紐解けば、それらに關しての説明が与えられるであろう。

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをどう捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

一番ベースには、人間の一般の認識

のベースとなる「存在－関係－変化」の中では、「念三千、一即多、間」が明確である。それらを紐解けば、それらに關しての説明が与えられるであろう。

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

李御寧の『縮み』志向の日本人

にしても、浜口恵俊の『間人主義』

にしても、それらのキーワードは、

日本（人）論の多くの内容を通底す

として明らかにされている如き内容が、どうして日本社会に形成されたのかに關してである。

李御寧氏の『縮み』志向の日本人

にしても、浜口恵俊氏の『間人主義』にしても、それらのキーワードは、

日本（人）論の多くの内容を通底する、あるいは焼き鳥の串の如き役割りを立派に果たしてくれては

いる。

しかし、こうしたキーワードそのものが、日本社会の歴史の中でどのよう形形成されたかに關しては余り

体系的な記述をしたものを見当たらないのである。日本にどのようにして稻作農業が入つてき、それが日本人の生活をどのように展開したかについての記述は詳しいが、それらがどの様に日本文化の特質を形成してきたかに關しての構造的、体系的分析はどうも弱いのが今までの日本（人）論ではなかつただろうか？

私がここで問題にしたい事は、前述の『日本文化のかくられた形』の中で、日本の代表的な事、「間人」が明らかにされている如き内容が、どうして日本社会に形成されたのかに關してである。

李御寧の『縮み』志向の日本人

にしても、浜口恵俊の『間人主義』

にしても、それらのキーワードは、

日本（人）論の多くの内容を通底す

る。

既に図4の丈夫で示した日本文

化を示すキーワードは、「存在－関係－変化」を示す具体的な言葉として約出来ることを示してある。

既に図4の上部で示した日本文

化を示すキーワードは、「存在－関

係－変化」を示す具体的な言葉とし

て今まで多くの人に取り上げられ

てきている。前述の本でも、それ以

外でも多くの日本人（人）論が上梓

されており、その中で解説が加えられ

る。

既に図4の丈夫で示した日本文

化を示すキーワードは、「存在－関係

－変化」を示す具体的な言葉として

今まで多くの人に取り上げられて

きている。前述の本でも、それ以外

でも多くの日本（人）論が上梓さ

れており、その中で解説が加えられ

ている。それらを紐解けば、それらに關しての説明が与えられるであろう。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

したいと思う。

図4には、日本文明、文化の深層

（基底）、あるいはプロトタイプをど

う捉えるかを示した。

私がここで問題にしたい事は、前

回返すが、前述の『日本文化のかく

られた形』の中で、日本の代表的な事

（人）論ではなかつただろうか？

それを次回以降で述べていく事に

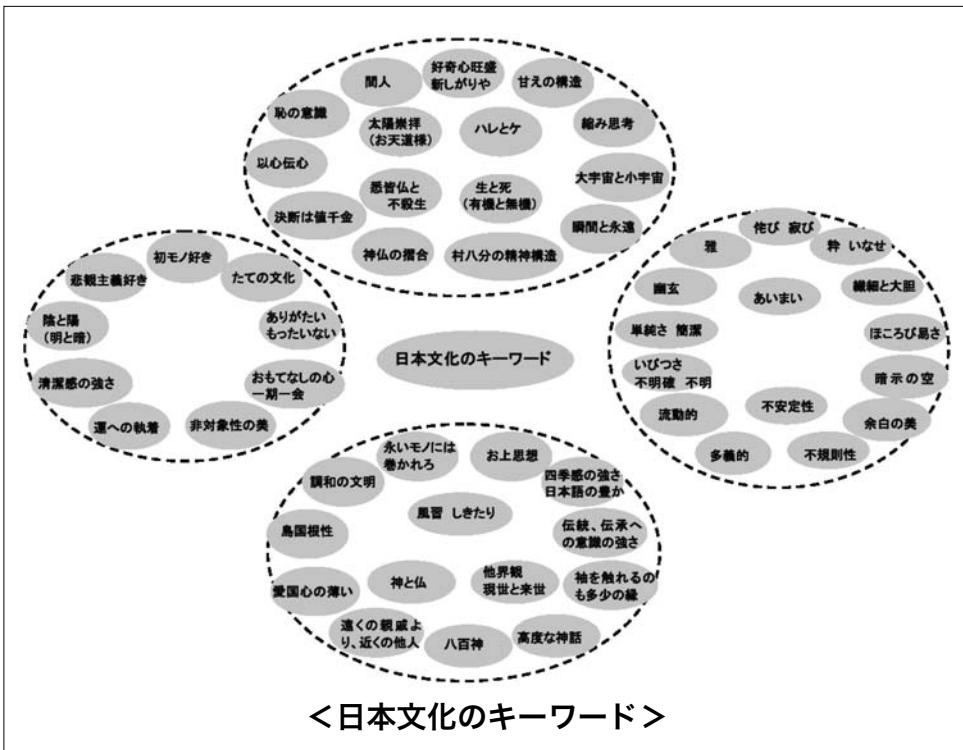
る、あるいは焼き鳥の串の如き役割りを立派に果たしてくれている。

しかし、こうしたキーワードそのものが、日本社会の歴史の中で、どの

ように形成されたかに関しては余り体系的な記述をしたものはない。日本にどのようにして稻作農業が入ってき、それが日

本人の生活をどのように展開したかについての記述は詳しいが、それらがどの様に日本文化の特質を形成してきたのかに関しての構造的、体系的

分析はどうも弱いのが今までの日本（人）論ではなかつただろうか。それ次回以降で述べていく事にしたいと思う。



- |                         |                              |
|-------------------------|------------------------------|
| ○ アジア大陸の東の海に浮かぶ島国(蓬萊島)  | ○ 日本人の生活構築 一間人主義と旬と節句一       |
| ○ 亜寒帯から亜熱帯の気象           | ○ 環境の淘汰圧への適応                 |
| ○ 温帯モンスーン（年間降雨量 1800mm） | ○ 水田稻作農業 一村としての共同作業 一定定住一    |
| ○ 国土の2/3は山              | ○ 山間の山里の運命共同体としての村落共同体 一村八分一 |
| ○ 国土の真ん中にアルプス山脈         | ○ 複雑な自然の反映としての日本人の心情の複雑さ     |
| ○ 四季の明確性（ほぼ3ヶ月毎）        | ○ 日本語の特色 一主語が無い（いらない）一       |
| ○ 火山国であり、地震の多い国         | ○ 開かれた文化と閉じられた社会             |
| ○ 海岸線が長く、海洋生物種の35%が生棲   | ○ etc..                      |
| ○ etc..                 |                              |

### ＜環境適応＞

色即是空 空即是色  
無有と悉皆仏と不殺生

一念三千と一即多と間

無常観と縁起と千変万化

### ＜根本概念＞

存在  
<物質>

+

関係  
<空間>

+

変化  
<時間>

### ＜認識基本概念＞

図4 日本の文明、文化の深層（基底）をどう捉えるか？